

事業名

花いっぱい通学路クリーンアップ作戦

目 標

地域の方々と児童・生徒の交流と、地域を大切にする心の育成

1. 取組の視点

子どもたちと、地域の方々および保護者が、より活発な交流をはかり、相互理解を深めるとともに、子どもたちの「地域を大切にする心」を育てることを目標として、校園周辺地の環境整備活動を協働して行った。

2. 取組の概要

本校区では「花いっぱい通学路クリーンアップ作戦」と題して、校区内の小・中学校の実情に応じた取組を展開し、学校支援地域本部コーディネーターを中心に相互に協力、連携を図り、富雄中学校区として一体的な取り組みとした。



富雄北小学校では、富雄川沿いの県道を明るく心とむフラワーロードにする活動を行った。事前の整地や準備に地域自治

会・保護者の協力を得て、親子約200人が参加し、学校周辺の県道沿いの花壇にパンジーの苗を植え付けた。

鳥見小学校では、校区全世帯に事業の趣旨を示したパンフレット及び「鳥見子ども見守り隊」のステッカー付きゴミ取



りばさみを配布し、「鳥見パチりんこ Day」(H22/12/18)を実施した。参加者の家から学校まで、通学路のゴミを拾いながら、同時に危険箇所をチェックした。当日は約400名が参加し、事前の作業等にも校園、各地域団体や自治会、PTAの多数の協力をいただいた。

富雄第三小学校では、地域住民・園児・児童・

保護者が協力し、平成23年度に開校する富雄第三小中学校の正面にあたる富雄第三幼稚園の東斜面を整備して、花壇作りと記念植樹を行った。



富雄中学校では、「花咲きロード」と題し、生徒と保護者、近隣自治会や地域ボランティアの協力のもと、荒れ放題だった学

校前歩道の花壇の整備を行った。パンジーの苗を事業名ステッカー付きプランター150個に植え付け、球根・芝桜等を地植えにした。事前の整地作業からの大人ボランティアはのべ96名、生徒ボランティアはのべ約200名になった。

3. 成果と課題

地域住民と、多数の児童・生徒が協働し、また、安全・見守り活動を兼ねることにより、この事業への理解を深め、地域の子どもたちや学校に目と心を向けてもらうきっかけが作れた。児童・生徒も、親や先生以外の多くの大人と接することができた。準備・作業の段階から地域住民に携わってもらい、又、プランターやゴミ取りバサミへステッカーを貼ることにより、この事業を地域へアピールすることができた。

今後の課題は、児童・生徒や大人が参加しやすい活動日程、募集方法を工夫すること、校区内校園の調整を早い時期に検討していく。また、校園・コーディネーターが相互に協力、連携し、情報交換を密にして事業に生かしていくことも引き続き必要といえる。

事業名

イキイキ富中

目標

生徒を中心に据え、保護者と地域、教職員が手を携え、学校の学習環境を整備し改善し、希望に満ちた学校づくりをすすめる

1. 取組の視点

懇談会や学校開放日に加え、文化発表会、体育大会、合唱コンクールなど様々な行事に保護者をはじめ、地域の代表の皆様に参加していただくなど、開かれた学校作りに努めてきた。

しかしながら、学校教育診断結果から保護者と生徒の間に開きがあることや地域の方から寄せられる声を聞く中で、学校や周辺の地域での生徒活動の活性化をねらいとする、より身近な人たちでの学校と地域が取り組める継続的な活動が必要であると考えた。

2. 取組の概要

老朽化した校舎や施設を見て好感を抱く人は少ない。また、それを自らが美しくすることによって学校への愛着が生まれると信じ、前校長より、生徒、教職員、PTAを中心に学校の美化が行われてきた。この流れを引き継ぎ、前述の視点に立ち、学校が、学校とPTA、または、地域教育協議会はじめ地域と多様な形態で連携し、次のような活動を行った。

昨年度より始まった校舎の各場所にある掲示板を利用した壁面飾りは、予算が付いたことで各学年に広がり、定期的に更新されるようになった。

また、活動のようすを写真掲示するなどの広報活動の工夫と相まって、温かい雰囲気在校舎に漂い、落書きの減少



とともに来校される方々にも好評だった。トイレ清掃を始めるにあたりトイレ清掃の研修を教職員、地域教育協議会等で行った。研修内容を基に

清掃用具を購入し、清掃時に役立てている。

また、PTA、地域教育協議会等と連携し、学校前の道路の植え込みの美化に取り組みました。生徒会が中心となって生徒が植栽前に美化活動を行い、植栽や整備等の作業には地域のボランティアと共に活動し、現在も水やりなどの作業を



継続している。卒業式を飾る花の準備も進行中で、活動後、生徒に声をかけてくださる地域の方も少しずつですが、出てきた。植え込みのゴミも減った。

数年前より地域の催しに参加してきた吹奏楽部であるが、今年は、予定が合わず断らなければならぬほどだった。楽器の運搬には費用がかかるが、予算化できたおかげで安心して参加できるようになった。三碓の夏まつりには教職員や部活動を終えた生徒、保護者、地域のみなさんが渾然一体となって参加し、盛り上がった。

3. 成果と課題

保護者はじめボランティアのみなさんのご協力をいただき、美化・文化活動を行う等、教職員、生徒との話し合いや共同作業を通し、生徒、保護者、教職員がコミュニケーションが深まった。活動はようやく戸口に立ったところであるが、方法や組織などで、活動を円滑にすすめるために改善しなければならない課題もあると考える。地域教育協議会を中心に整理し、取り組んでいきたい。

事業名

スクスク富中

目 標

生徒を中に据え、保護者と地域、教職員が手を携え、生徒が持てる力を思う存分に発揮できるよう教育内容面において、「生徒育成の重点」を実施する

1. 取組の視点

一斉授業の中では十分に理解することや、力を発揮できずにいる生徒たちを支援する放課後学習を数年前から取り組んできたが、部活動や会議などで継続して取り組めなかった。また、将来に夢を持たせ、夢に向かって進めるようキャリア教育の充実や多文化共生を目指す国際理解教育でほんものに触れさせる機会がもてるようにといった願いから、研究部を核に地域教育協議会はじめ関係機関、団体の支援を受けながら課題解決に向けて取り組んだ。

2. 取組の概要

昨年度は継続を目指し、地域教育協議会の支援を受け放課後学習（ＡＳＡ）をボランティアと担当の教員ではじめたが、うまく行かなかった。アンケート結果や反省会から継続のために部活動との兼ね合い、達成感を味わえる教科の選択、申し込み制などの工夫を加えることで充実した活動となりつつある。学習支援ソフトを用いて、その場で生徒

のニーズに応じた課題を与えることができるのも魅力である。研究部を核とし



た取組によって、教職員全体がこの取組に関わっていること、参加した生徒の多くが満足していること、参加したボランティアさんの延べ人数が300人を超えること等々、成果を上げることがで

きたと思われる。キャリア教育ではゲストティーチャーとして多くの職業人を招くことができた。

また、職場体験ではコーディネーターを中心に事業所開拓をしていただき、多くの職種を生徒たちが経験することができた。国際理解教育でも、たくさんの国の人たちに來ていただき多くの文化に触れることができ、生徒たちにとっては、貴重な体験となった。



さらに教職員向けに

特別支援教育の研修を持ち、生徒理解を深め、スクールカウンセラーを招き、生徒の心の理解と心の健康を維持していくことについてワークショップ形式で研修もでき、力量アップにつながったと考える。

3. 成果と課題

保護者はじめボランティアのみなさんのご協力をいただき、学力向上やキャリア教育、国際理解教育、健康教育などに力を入れ、生徒の生きる力の向上を図る一助となったと考える。課題としては、ＡＳＡの発展に伴う、ボランティアの確保やＡＳＡと教職員との関わり方を整理すること、教職員研修の持ち方、事業所開拓の継続と職場体験のあり方など学校教育との関わりを整備することがあげられる。

事業名

富雄大好きプロジェクト

目 標

富雄を誇りに思い、富雄で学んでよかったと思える人づくり**1. 取組の視点**

本校区には、近鉄富雄駅があり、京阪神等への通勤が便利であるなどの立地条件から近年、大規模なマンション開発や宅地開発が進んだ。このような状況下で、ややもすると地域住民同士のつながりが希薄になり、子ども同士の人間関係にも影響を落とすところであるが、地域各団体の皆様方の様々な取組をはじめ、集団登下校のお陰も手伝い、子ども同士の中に自然な形で近隣の縦割り集団が形成されている。この中で上級生は下級生を気かけ、下級生は上級生を慕い、モデルにするなどの関係ができてきている。また、地域の方々、保護者間にも顔の見える関係づくりが広がりつつある。今後はさらに地域・保護者の方々と学校が連携強化のための協働事業を展開することにより、学校教育活動を充実させるとともに学校を核とした地域コミュニティを活性化し、富雄を大切に思うとともに富雄で学んでよかったと思える人づくりを目指す。

2. 取組の概要

7月19日 地域安全マップづくり

各自治会長さんと保護者・児童が通学路を歩いて点検し、学校に戻った後、危険と思われる場所



を集約しつつ地域安全マップに仕上げた。

8月22日～28日ラジオ体操（小学校にて）

9月30 障害者カヌー協会の吉田さんをお招きして、「カヌーを通して障害者も健常者も一緒に楽しめる世の中を目指したい。」というお話を聞き、プールでカヌーを教えていただいた。

10月 3日 ふれあい秋まつり



11月 6日 食育フェスティバル

12月11日 スポーツ大会

1月13日 昔遊び

1月26日 福祉体験（車いす体験等）

3. 成果と課題

学校と家庭と地域が連携し事業を運営することで、参加した児童・保護者と地域の方々とのふれあいの機会を増やすことができた。さらに、保護者同士の交流にも一定の効果をあげることができた。

富雄の人・もの・こととの出会いに関して次の3点で地域連携の意識を高める契機となった。

- ① 児童の通学時の安心・安全への取組
- ② 命の大切さと防犯の観点も取り入れた食育
- ③ 地域行事への参加を通して、地域に根ざす児童の育成

事業名

レッツイングリッシュとりみっ子

目 標

外国の文化や言語に親しみ世界に目を向ける国際人を育成する

1. 取組の視点

本校は、平成16年から県教育委員会の「早期英語教育」の研究モデル校の指定を受け、19年20年には、文科省の「小学校における英語活動等国際理解活動推進事業」を受けて、6年間を通じた英語活動に取り組んできた。

しかし、事業が終了した昨年度は、低学年の英語活動が実施できず、6年間を通じた計画的な活動ができなかった。さらに、保護者等からは低学年の実施について、強い要望がなされた。

そこで本年度は、世界に目を向ける国際人の育成を目標に、小学校6年間を通し英語を使ってコミュニケーションを図ることができる児童の育成をめざすことにした。

2. 取組の概要

1年生には、保育園や幼稚園でネイティブの講師からすでに英語との出会いを体験している児童もいる。しかし、初めて接する児童もいるので、



英語活動を楽しめるようにと、基礎となる言葉をゲームや歌・ジェスチャー等の身体表現を伴う活動を通して、オーラルを中心に学習した。

2年生は前年度、学期に1回程度の英語活動を実施したが、今年度本事業により月1回程度の授業を行うことができた。外国語に親しむためには授業の頻度とスパイラルな取組がポイントになるが、2年生に対して継続的な取り組みを実施することができた。



中高学年に対しては、ゲームや身体表現をとりいれて、自然と英語の会話に慣れ親しむ活動を英単語もまじえながらオーラルを中心に展開した。

英語の絵本を見せながら、読み聞かせを英語でやる取組も行った。児童は、絵を頼りに物語の内容を理解し、同時に英語の表現や単語の意味も身に付けていった。

また、外国の文化や風習・生活に関する知識を、長年外国で暮らしていた講師の先生の、具体的な生活の場面でのエピソードを通して伝えることができた。

3. 成果と課題

歌やゲーム、身体表現を取り入れた結果、体全体で英語活動を行うことができ、自然と英語に親しみを持って学習する姿が見受けられた。

また、活動の中で世界のさまざまな国の文化にも興味を持つようになった。

児童が、小学校6年間を通してスムーズに外国語を学習できる体制が組めたことは良かった。

来年度から新指導要領の実施に伴い英語活動が5・6年で週1時間行なわれる素地作りとしての低学年の英語活動の位置づけと、6年間の一貫した体系的なカリキュラムの作成が必要である。

事業名

地域を愛するとりみっ子

目標

鳥見の良さを学び、地域に対する自信と誇りと愛着を育成する

1. 取組の視点

「奈良に生まれてよかった」「奈良に住んでよかった」と奈良を誇れる子どもを育成するには、まず、自分の住んでいる地域を愛せる子どもを、地域全体で育てていかなければならない。

また、子どもの健全育成をめざすという視点を持って地域の人々同志のつながりがさらに深まるような事業にしていきたいと考えて取り組んだ。

2. 取組の概要

1年生は、地域の高齢者の方々に昔の遊びを教えてもらった。社会福祉協議会が中心となって呼びかけていただいたので、当日は多くの方が、コマ回しや羽子板、花いちもんめやけん玉・お手玉、折り紙などの昔遊びを教えに来ていただいた。1年生からはお礼と歌のプレゼントを行った。その後、給食を一緒に食べながら、和やかな交流となった。



2年生と6年生は、地元の獣医師の方々が、犬やウサギの飼育と命について教えていただいた。聴診器を使って自分と動物の心臓の鼓動の違いを聞き比べたり、6年生は血液の働きについても詳しく教えていただいたりした。生命を慈しむことの大切さから友達や動物に優しく接することを学んだ。



3年生は、地域のスーパーマーケットを見学し、地域の方の買い物と店の工夫について店長さんに詳しく教えてもらった。

4年生は、学校の隣にある「生活リハビリ型介護施設」を見学し、施設の仕事や、働くことの苦労や喜びを学ぶことによって福祉について学び合った。

5年生は、世界遺産学習に取り組む中で、古代米について追求し、地域コーディネーターの方々の協力を得て、自分たちのブランドを立ち上げ、商店街で調査活動を行った。



3. 成果と課題

地域の中には、素晴らしい技術を持った方や専門家がたくさん住んでおられることが分かり、子どもたちは鳥見地域に住んでいることに愛着を持ったようである。

また、地域の人材を見つけ出すことは、教員にとってはなかなか困難であるが、地域に住んでおられるコーディネーターの方はよく知っておられ、人材の紹介にもご協力いただいた。

今後は、協力いただいた方を起点にして人材バンク的な組織を構築していくことが、本事業を継続していくポイントとなると考える。

事業名

小中一貫教育を基盤とした学校・地域づくり

目標

豊富な地域の教育力を積極的に活用することにより、小中一貫教育を基盤とした特色ある学校・地域づくりを推進する

1. 取組の視点

本校区には、地域の伝統・文化、自然、人材など、豊富な地域の教育力がある。これまでも水墨画教室や茶の湯教室、囲碁教室など地域の方のご指導を仰いできた。

平成23年4月に小中一貫教育校として新たな歩みを進めるにあたり、地域との連携をより一層深め、新たな学校・地域づくりに向けた取組の充実を図っていききたい。また、学習した成果については、地域の行事や交流会で子どもたちの具体的な姿を通して情報を発信したいと考える。

学校が地域活動の拠点の一つとなるよう、開かれた学校づくりを推進していく。

2. 取組の概要

(1) 小中一貫教育の推進

小中一貫教育を基盤とした特色ある教育活動を展開できるよう努めた。地域の教育力を活用した主な取組は次のとおりである。

- ① 世界遺産学習
- ② 平和学習（被爆体験に学ぶ）
- ③ 奈良西養護学校と交流
- ④ 近畿大学と交流（食について学ぶ）
- ⑤ 赤膚焼体験（身近な伝統文化にふれる）
- ⑥ 能・狂言体験（伝統文化に学ぶ）



【真剣な表情で鼓を打つ児童】

⑦ オープンキャンパス

（部活動、新設3教科）

⑧ スマイル会との交流（昔遊びを楽しむ）

⑨ 焼き芋パーティ（地域の方を招いて）

(2) 音楽を通した学校・地域づくり

富雄第三地区自治連合会が主催する文化交流会に参加した。日頃、交流する機会のない地域の方もたくさん参加しておられ、児童の歌や楽器演奏に温かい眼差しを注いでいただいた。

音楽を通した交流は、年齢を超えてお互いが温かい気持ちになれた。

今年度購入した楽器は、まだ発表するまでには至っていないが、来年度の交流では発表できるよう現在練習を重ねている。



【地域の文化交流会で発表する6年生】

3. 成果と課題

これまで積み重ねてきた地域の方との交流は、着実に本校に根づいている。本物と出会うことで子どもたちは感動を覚え、目を輝かせる場面を何度も目にした。

今後も小中一貫教育という新しいフィールドの中で一層連携を深め、学校が地域から様々なことを学ばせていただくとともに、まちづくり、地域づくりの拠点となるよう取組の充実を図っていききたい。

事業名

であい ふれあい 育ちあい ハートフル富雄北幼稚園

目 標

いろいろな人、もの、ことに会うことで感性を触発し、園児なりに考えたり、感じたりしたことを楽しむ。また、友だちや先生と一緒に表現したり、工夫したりして、育ちあえるようにする。また、持続可能な未来へ希望を抱き、地球、地域のくらしや学びを継承する園児を育成する

1. 取組の視点

子どもたちは、食育・環境教育・地域教育・国際理解等を通して、いろいろな人、もの、ことに会う。そのなかで、ものごとに主体的に関わることができる子どもの育成が必要であると考え。そのためには、それぞれの分野で活躍されている地域の方々に、園児や保護者、未就園児も共に教えていただき、保護者も共に歩めるよい機会となっている。地域の教育力を踏まえこのつながりを大切にしていきたい。

2. 取組の概要

茶道体験や剣道体験を行い茶道体験では親子でお茶を点てあってお菓子（花卉餅）をいただいた。



一時の会では、世界遺産の話「大仏様」の話を聞かせていただいたり「お水取り」の話を聞かせていただいたりした。また、大仏殿の瓦粘土を使って表現遊びをするなど、世界遺産や伝統・文化に少しでもかかわって、感動したり、不思議に思ったりするなど、心に残る経験をする事ができた。



また、地域の方のご厚意で、幼稚園の前の道に面した広い畑をかしてくださることになった。同時期にさつま芋の苗をたくさんいただき、生長や収穫を楽しみにさつま芋を植え、世話をした。借りている畑に愛着を持ち畑の看板をつけた。地

域の方々が、足を止めて看板を見て下さったり、「次は何植えているの？」と声をかけて下さったり、育て方を教えていただいたりするなど、幼稚園の畑を気にかけてくださるようになった。



地球温暖化のパネルシアターを視聴する。地球が暑くなると「白熊の氷が溶ける。」の話や「CO₂を増やさない、CO₂を減らそう。」などの話を聞きCO₂を増やさないようにしなければいけない。自分たちにできることは何かと考え、明るい時・外へ行く時には電気を消すという子どもたちの姿から保護者も環境問題を考えるようになった。また、「将来は地球を守る人になりたい。」と思う幼児もいた。

3. 成果と課題

園児たちも、保護者の方々も、地域から大切にされていることを実感している。たとえば、地域の方から、畑を無償で貸していただけることや栽培についてアドバイスをいただいたりしている。このことは、食育の活動に幅を持たせた。また、地域の多方面に渡る講師の方々が、園児用に分かりやすく話をしていただき、茶道、世界遺産、等の学びにつながっている。今後も、このつながりを大切にして、地域の教育力のご協力を是非お願いしたい。



事業名

みんなで栽培・食育

目 標

地域の人たちとのふれあいをしながら野菜などの栽培体験をし、収穫した作物を食することを通して好ましい食習慣や人間形成の基礎を培う
(地域と連携した栽培・食育活動)

1. 取組の視点

本園の園児は自然や人々との触れあいが少なくなりがちであり、食習慣の偏りがみられる幼児もいる。そんな中で地域にあって、畑や様々な自然とのふれあいの場や機会を提供されている小中さんを通して、園内に菜園を設け栽培活動をしたり、小中さんの農場に出向いたりして、地域の方々とふれあいながら栽培活動を行ってきた。本事業を活用して、今までの取り組みをさらに広め、実際に地域の方々や親子でいろいろな作物を育て、それを食したりする体験や食育ミニ講座、食育講演会等を通して、家庭との連携を深める。

2. 取組の概要

小中さんの指導のもと、季節の様々な野菜や稲の栽培、収穫体験を友達や保護者とともにし、収穫した作物を幼稚園では、カレーパーティー、おにぎりパーティー、もちつきをしてみんなで楽しく食べた。野菜のレシピもつけて家庭にも持ち帰り、家族と共に幼稚園の野菜を食べた。小中さんの畑や里山探検もさせてもらい、小中さんとのふれあいを楽しみながら、幼児たちが思いきり体を動かし生き生きと活動することができた。



また、年間を通じて毎月、保護者対象の食育ミ

ニ講座、年2回食育講演会を地域の栄養士、中本さん、石田さん、社会福祉協議会の松本さんの協力を得て開催した。実際に幼児の弁当を持ちより主菜、副菜の望ましい割合や栄養のバランス、野菜を多く入れる工夫や、おかずをつくる実演もした。

3. 成果と課題

地域の人や保護者とのふれあいを楽しみながらの栽培・収穫・自然体験を積み重ねることができた。偏食がちな幼児も自分で育てた野菜を食べようとしていたり、友達や教師、保護者と一緒に食べることを楽しんだり、幼児にとって好ましい食習慣が身についた。栽培物の世話をする体験をしたことで、小中さんや食べ物に対して感謝の気持ちや大切に作る気持ちが養われ、人間形成を培うために有効な経験となった。

また、食育講演会・食育ミニ講座は保護者の食への関心が高まり、日々の食事にもひと工夫するコツを学び、幼児の弁当の内容にも変化が見られ、食事を通して園や家庭での会話も充実してきた。来年度は園舎移転のため活動方法を考える必要がある。

事業名

ありがとう鳥見幼稚園、よろしく鳥見小学校

目 標

小学校での生活や学習を見通した教育の創造を通して、コミュニケーション力の育成、集中力・想像力を育成する

鳥見幼稚園舎に感謝の気持ちをもたせ、小学校の生活への期待を育む
(小学校教育への滑らかなつながり)

1. 取組の視点

本園は来年度から鳥見小学校内に併設が決定している。かねてより小学校への滑らかな接続を意識した保育のあり方について研究を重ねてきた。子どもたちの小学校以降の生活や学習を見据えて、どのような教育が大切であるかを考えた。①年少年長を連続したスパンで捉える教育。②総合的かつ多様な体験活動の創造。③小学校との交流の3点が大事であると考えた。特に①②については、鳥見小学校のカリキュラムをも視野においた活動を行うことが大切であると考えた。そのことから、子どもたちに多様な体験活動ができる取り組みを通して、コミュニケーション力や集中力、思考力、規範意識を育てていきたい。また、園舎近隣の地域の方々や、現在生活している園舎への感謝の気持ちを育み、小学校内の新しい園舎での活動に期待をもたせたい。

2. 取組の概要

コミュニケーション力、集中力、想像力の育成として外国人講師による英語活動・ボランティアによる絵本読み聞かせ活動は以前より続けており、年間3回ずつ実施した。英語活動は英語での挨拶、歌やリズム遊び、ゲームを通して講師先生とのふれ合いを楽しみながら英語に親しんだ。



絵本読み聞かせは、絵本だけでなく手遊び、パネルシアター、人形劇などもして下さり、子ども達は毎回とても楽しくお話に親しんでいた。

また、今年度で最後となる現園舎やお世話になった地域の方々に感謝の気持ちを込めて「ありがとう鳥見幼稚園 園舎お別れのつどい」を実施した。園児、保護者、地域の方々と園舎お別れ式をし、その後、“朗天狗 しんちゃん”の楽しい絵本読み聞かせ&トーク、教育大“ウインドアンサンブル”の演奏を聴いたり共に歌ったりして楽しいひとときを過ごした。

**3. 成果と課題**

幼児たちは、絵本やパネルシアター等に親しみ、お話の世界に引き込まれていった。想像力や集中力を養うことができ、感じたことを言葉や体で表現する姿が見られた。「英語であそぼう」は楽しみながら異文化に接し、園舎や地域の方々に感謝の気持ちをもち、小学校での生活に夢をもってつなげていくことができた。来年度は、併設の利点を生かし、小学校教育をより見据えた長いスパンで捉える教育を進めていくことが課題である。

事業名

友達と一緒に思いっきり表現しよう

目標

いろいろな人とかかわり、人とつながりながら豊かな心を育てる

1. 取組の視点

地域の方の温かいかわりや教育力を生かしながら、恵まれた環境の中でマリンバやゴスペル、クリスマスコンサート、近大生との触れ合いコンサートなど、いろいろな経験をする中で感動体験を積み重ね、その中で思ったこと、感じたことをいろいろな形で表現できる幼児を育成していきたい。

2. 取組の概要

マリンバ演奏 小学校の保護者の方にマリンバの演奏をしていただいた。みんなが知っている曲やバチから奏でられる音楽は、子どもたちや保護者を魅了しました。翌日、木琴や鉄琴を出しておく、各保育室から楽器の音が聞こえ子どもたちはマリンバ演奏者になって音楽を楽しんでいた。このことがきっかけとなつていろいろな楽器に興味をもち合奏や生活発表会に様々な形で表現することができた。



みんなで絵を描いて遊んだよ

楽しかったこと、印象に残ったこと、興味をもったことなどを絵画表現することが好きな子どもたちである。クレパスや絵の具を使って自分の思いを画用紙に描き、太い線や細い線も考えて表現することを楽しんでいた。



ふれあいコンサート

近隣にある近畿大学農学部吹奏楽同好会の方たちに来ていただき“ふれあいコンサート”を幼稚園で鑑賞した。たくさんの楽器に興味をもち、馴染みのある曲の演奏に子どもたちは一緒に歌ったり手拍子をしたりして楽しむことができた。

また、演奏の合間に読み聞かせていただく紙芝居を喜んだり、楽器を実施に触らせてもらったり、音をださせてもらったりして貴重な体験ができた。実際楽器に触ったり音をだしたりしたことは、子どもたちにとって感動体験となった。また、運動会にも参加して生演奏してくださり、子どもたちの気持ちを高め競技の盛り上がりにつながった。



3. 成果と課題

地域の方々の教育力を生かしながら、茶道やマリンバ、ゴスペル、クリスマスコンサートなど多方面にご協力いただき、幼稚園は子どもたちにとって学びの場となっている。今後もこのつながりを大切にしながら継続し心豊かな幼児を育成していきたいと考えている。

また、幼小の滑らかな接続に必要な読む力・聞く力をつけられるような環境整備をするための方法として、絵本を充実したり読み聞かせの実践の取組を深めていきたい。